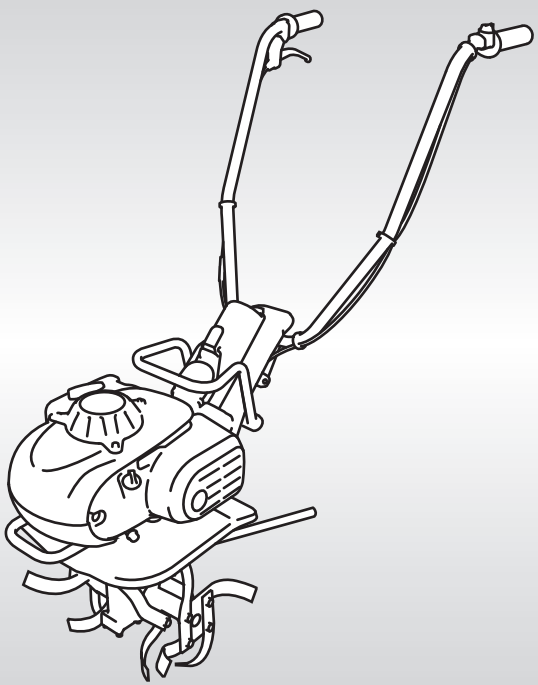
HONDA

# ミニ耕うん機

# FV200

## 取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

**お買いあげありがとうございます。**
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

**夜間作業はできません。**
**（本機は作業灯が装備されていません。）**

---

取扱説明書について
この取扱説明書は
- 作業をするときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

# はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

**安全に関する表示について**
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
**指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの**

⚠警告
**指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの**

⚠注意
**指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの**

その他の表示

**取扱いのポイント**
**指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの**

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

# 目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう.... 4
安全ラベル ..... 11

サービスと保証について ..... 12

各部の名称と取扱いをおぼえましょう ..... 13
エンジンスイッチ ..... 15
燃料コックレバー ..... 15
始動グリップ ..... 16
スロットルレバー ..... 16
ハンドル高さ調整つまみ ..... 17
ドラッグバー（抵抗棒） ..... 17
キャリースタンド ..... 18
キャリーボックス ..... 18

作業前に点検・調整しましょう ..... 19
作業前の点検 ..... 19
燃料の点検 ..... 20
カセットボンベの取付け・取外し ..... 21
エンジンオイルの点検 ..... 26
エアクリーナー（空気清浄器）の点検 ..... 28
キャリーボックスの取外し・取付け ..... 29
キャリースタンドの取外し・取付け ..... 30
ドラッグバー（抵抗棒）の調整 ..... 31
ハンドル高さの調整 ..... 32

エンジンのかけかた ..... 33

運転操作のしかた ..... 36
スロットルレバー ..... 36

エンジンのとめかた ..... 37

定期点検を行いましょう ..... 39

点検・整備のしかた ..... 40
エンジンオイルの交換 ..... 40
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃 ..... 43
耕うん爪（ロータ）の点検・交換 ..... 45

使用後の手入れ ..... 47

長期間使用しないときの手入れ ..... 48

故障のときは ..... 51

車への積載のしかた ..... 53
ハンドルのたたみかた ..... 53
車の荷台への積載 ..... 54
乗用車への積載 ..... 55

主要諸元 ..... 56

# 安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

**警告**

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- 作業を始める前に
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

- カセットボンベの取扱い

- カセットボンベに記載されている警告内容をよくお読みください。
- 使用するカセットボンベは、「東邦金属工業（株）」と表示があるカセットこんろ用ボンベをご使用ください。
- カセットボンベは、本機に付属するボンベケースに正しくセットしてご使用ください。
  カセットボンベの切欠きを下側ボンベケースの凸部に合わせない状態で本機に取付けると、ガス漏れを起こすおそれがあります。(21 頁参照)
- カセットボンベをボンベケースなしで、本機に直接取付けないでください。ガス漏れを起こすおそれがあります。
- 本機からカセットボンベを取外した場合は、必ずカセットボンベ付属のキャップを装着してください。カセットボンベの先端ノズルを押し込むとガスが噴出します。
- カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがありますので、次のことをお守りください。
  ・カセットボンベを火の中に投げ入れないでください。
  ・カセットボンベを 40℃ 以上になる車内に置かないでください。
  ・カセットボンベを炎天下に置かないでください。
- カセットボンベに錆や変形がある場合は、使用しないでください。ガス漏れを起こすおそれがあります。
- 本機を使用しないときは、カセットボンベを取外してください。
- カセットボンベを保管する場合は、カセットボンベに付属するキャップをつけて 40℃ 以下の湿気の少ない場所に保管してください。思わぬ事故の原因になります。

警告

• 作業中
• ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
• 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向（等高線方向）に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
• ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  ・本機を手で持ち上げて移動する場合は、エンジンを停止させてください。また、本機を落下させたり車軸部に過大な力をかけないでください。本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。

**警告**

- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪（ロータ）は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように点火プラグキャップをエンジンが冷えてから取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- 液化ブタンは非常に引火しやすく、また 0℃ 以上では気化するため、引火した場合は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。カセットボンベを交換するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・カセットボンベを交換するときやボンベケースの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
- カセットボンベが入ったボンベケースを本機に取付けるときは、口金部にゴミや異物がないことを確認してください。
- 口金部に泥や砂などが付着している場合は、綿棒などで口金 O リング部を傷めないように拭き取ってください。口金 O リングを傷めると配管内にたまっているガスが噴出し、引火するおそれがあります。

**警告**

- 交換用カセットボンベは炎天下に置かないでください。カセットボンベに付属するキャップを取付けて、40℃ 以下の日陰で保管してください。
  正しく保管しない場合、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、速度を十分に落として周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。
  思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 爆発のおそれがあるので、カセットボンベは 40℃ 以下の場所で使用、又は保管してください。

**警告**

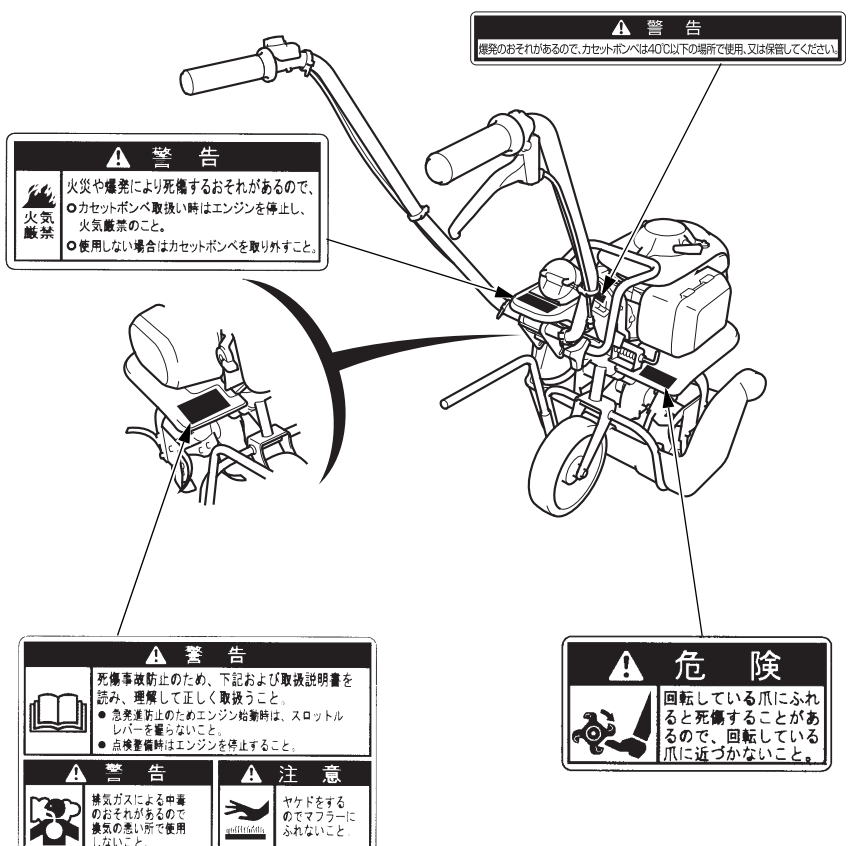
- 作業が終わったら
- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラー（消音器）は非常に熱くなっています。特にマフラーは熱くなっているので、手で触れたりカセットボンベ等をのせないでください。ヤケドをしたり、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを本機から取外し、カセットボンベに付属するキャップを取付けて 40℃ 以下の日陰に置いてください。カセットボンベを本機にセットしたまま炎天下に放置すると、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを外しても、本機の配管内にガスが残っています。作業が終わったら配管内に残っているガスを使いきってください（38 頁参照）。配管内に残ったガスでもエンジンは始動でき、スロットルレバーの操作により、爪（ロータ）が回転し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを捨てるときは、カセットボンベ内のガスを完全に使い切ってから、お住まいの地域の取り決めにしたがって捨ててください。ガスが残ったまま捨てるとゴミ収集車の火災の原因となるおそれがあります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

**警告**

- 積み降ろしおよび運搬時
- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンは必ず停止してください。
  - ・カセットボンベを取外してください。(25 頁参照)

## 安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店へお問い合わせください。



# サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。




(銘板は JT2 タイプ用)

※ フレーム号機および銘板の表示位置は 14 頁をご覧ください。
※ 裏表紙内側に書込み控え欄あり

**本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)**

**安全鑑定**

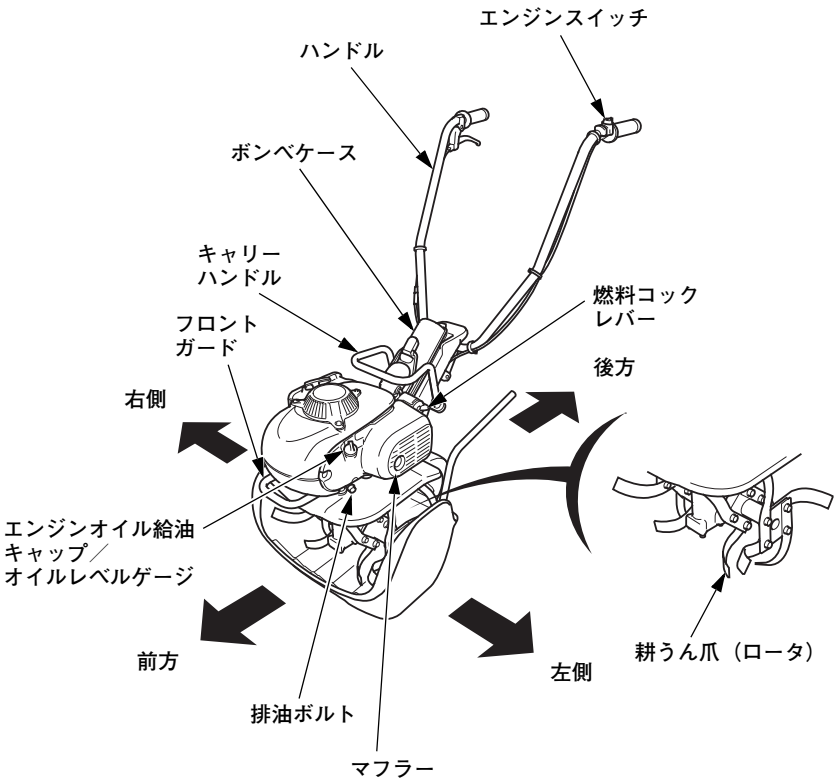
| 安全鑑定型式名 |
| --- |
| ホンダ FV200 |

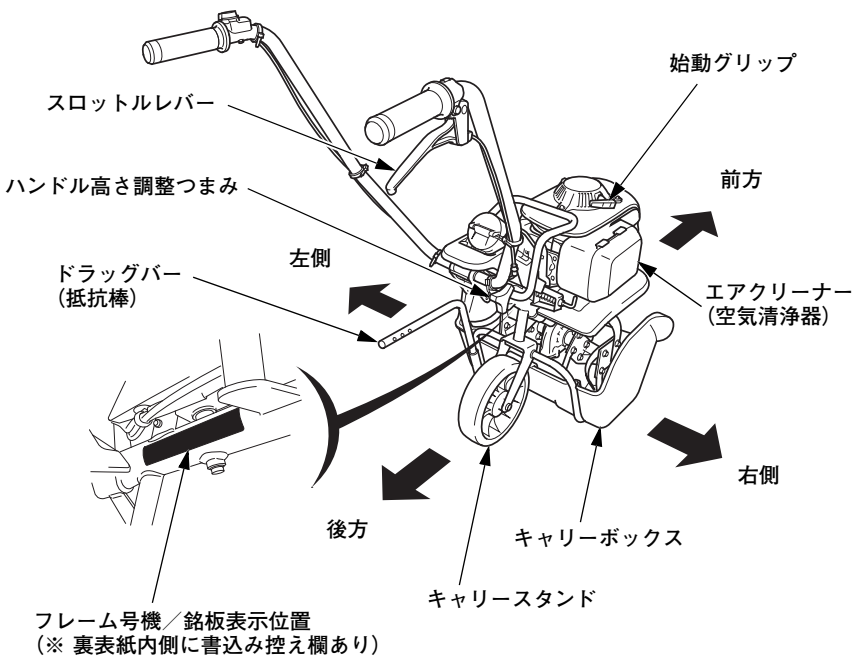
**安全鑑定証票**




(参考：ホンダ FV200)

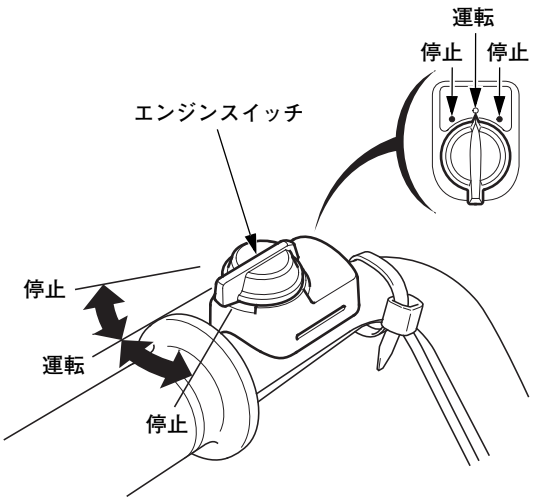
# 各部の名称と取扱いをおぼえましょう




始動グリップ
スロットルレバー
ハンドル高さ調整つまみ
前方
左側
ドラッグバー
（抵抗棒）
エアクリーナー
（空気清浄器）
右側
後方
キャリーボックス
キャリースタンド
フレーム号機／銘板表示位置
（※ 裏表紙内側に書込み控え欄あり）

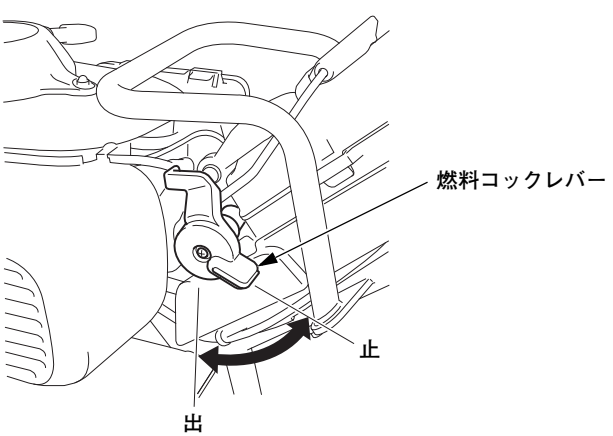
## エンジンスイッチ

エンジンの運転、停止をするときに操作します。



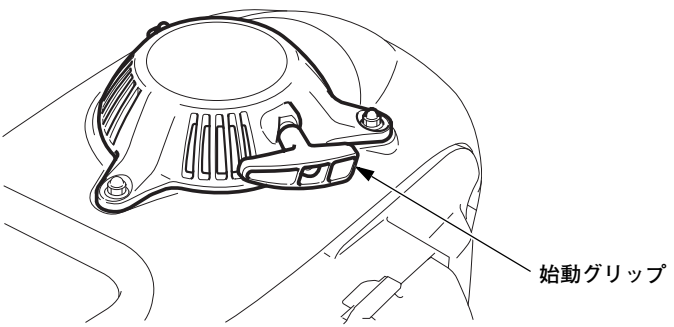

## 燃料コックレバー

カセットボンベの燃料を出したり止めたりするときに操作します。



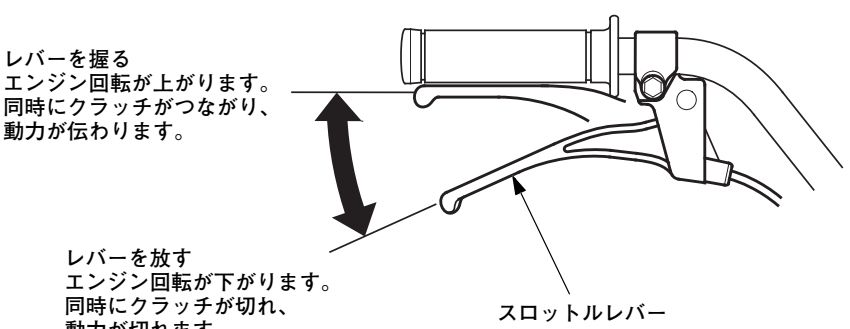
## 始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



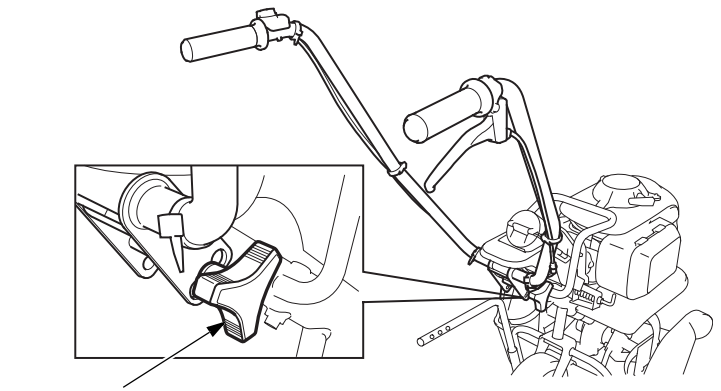

## スロットルレバー

エンジン回転を調整し、同時に車軸の回転、停止を行う装置です。



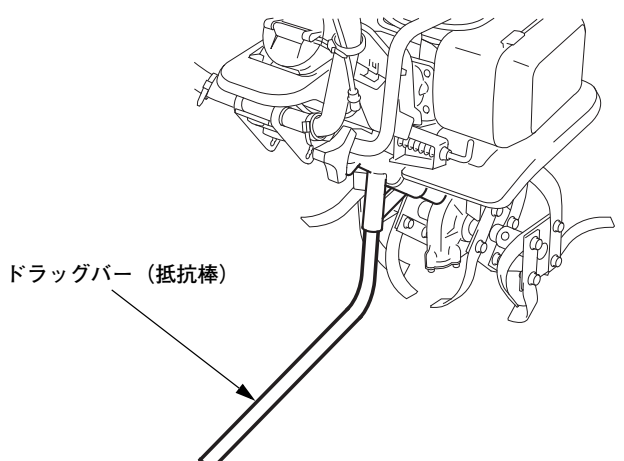
## ハンドル高さ調整つまみ

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるつまみです。（調整のしかたは 32 頁参照）



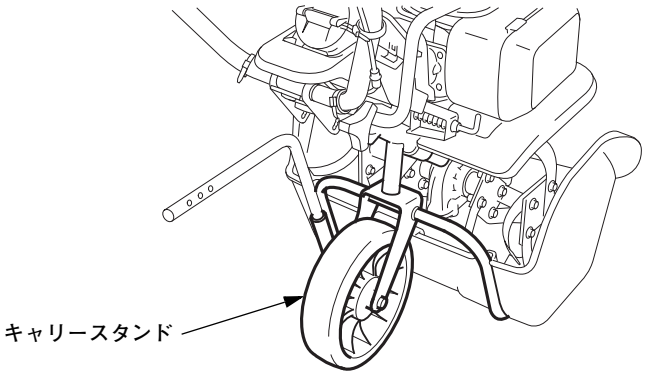

## ドラッグバー（抵抗棒）

ドラッグバーの高さは、ほ場の状態に合わせて 3 段に調整します。（調整のしかたは 31 頁参照）



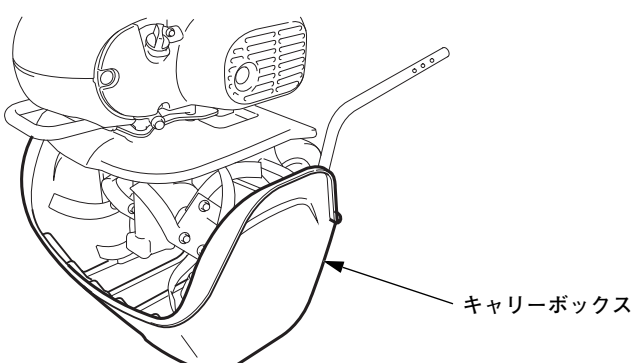
## キャリースタンド

点検、整備や車への積載など本機を水平にする場合や、本機を移動させる場合に使用します。




## キャリーボックス

保管や車へ積載する場合に使用します。



# 作業前に点検・調整しましょう

⚠警告
**点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。**

エンジンの周りにオイルの漏れがないことを確認してください。

## 作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機の周り ……使用する燃料が正しいこと。
  （20 頁参照）
  オイルの量（26、27 頁参照）が規定量入っていること。
  ガス漏れ（臭気）がないこと。
  オイルの漏れがないこと。
  エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着がないこと。
- レバーの作動 ……引っかかりがないこと。
  スムーズに作動すること。
- 各部の締付け ……ハンドル高さ調整つまみにゆるみ、ガタがないこと。
  ボルト、ナットにゆるみがないこと。
- 配線、ケーブル類 ……被覆のやぶれ、切れがないこと。
  配線、ケーブルのはさまりがないこと。
- エンジンの始動、停止…… エンジンを始動し、異音がないこと。
  （始動手順は 33 ～ 35 頁参照）
  エンジンスイッチで確実に停止すること。
  （停止手順は 37、38 頁参照）
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

## 燃料の点検

⚠警告

**液化ブタンは非常に引火しやすく、また 0℃ 以上では気化するため、引火した場合は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。カセットボンベを交換する場合は**

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ボンベケースにセットした状態で本機に取付けてください。**
- **錆や変形があるカセットボンベは使用しないでください。**

カセットボンベを振って残量が少ないようであれば交換用のカセットボンベを準備してください。

**使用燃料：東邦金属工業（株）製カセットこんろ用ボンベ（液化ブタン）**

⚠注意

**必ず「東邦金属工業（株）」と表示のあるカセットこんろ用ボンベを使用してください。表示のないカセットボンベを使用すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。**

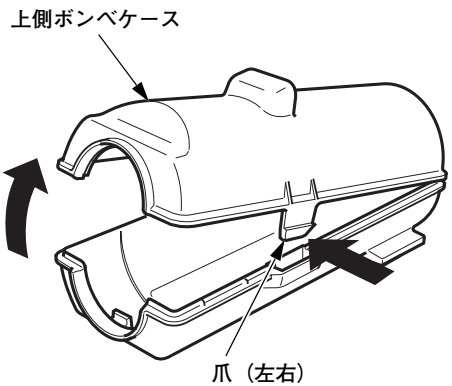
**使用温度範囲**

- **外気温 5 ～ 40℃**
  使用温度範囲外では、本機は使用できません。運転中に外気温が使用温度範囲外に変化した場合、エンジンが停止することがあります。

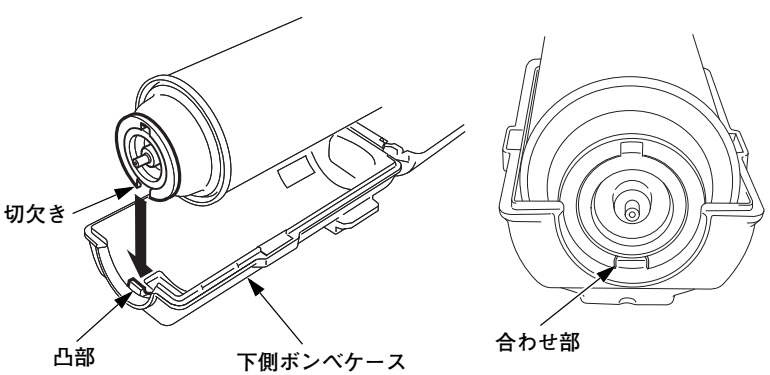
## カセットボンベの取付け・取外し

カセットボンベの取付け

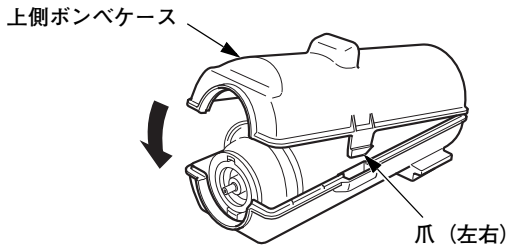
1. 上側ボンベケースの側面にある左右の爪を押しながら、上側ボンベケースを開けます。




2. カセットボンベ付属のキャップを外し、カセットボンベの切欠きを下側ボンベケースの凸部に確実に合わせて、カセットボンベをボンベケースにセットします。



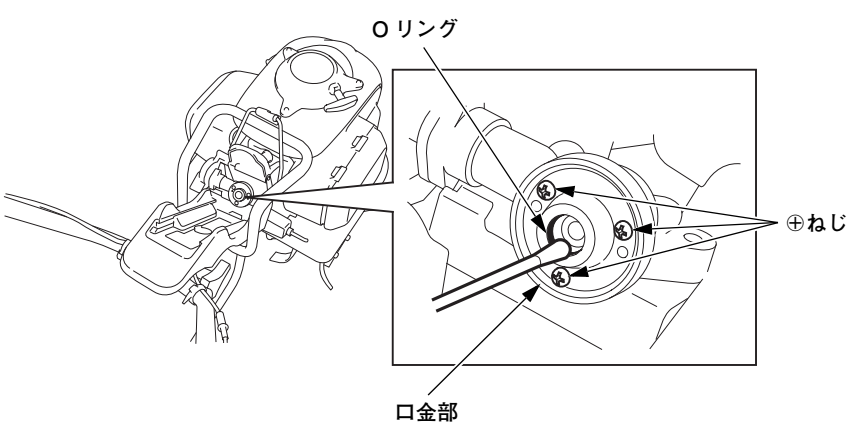
3. 上側ボンベケースを閉めて、上側ボンベケースの左右の爪を確実に組付けます。



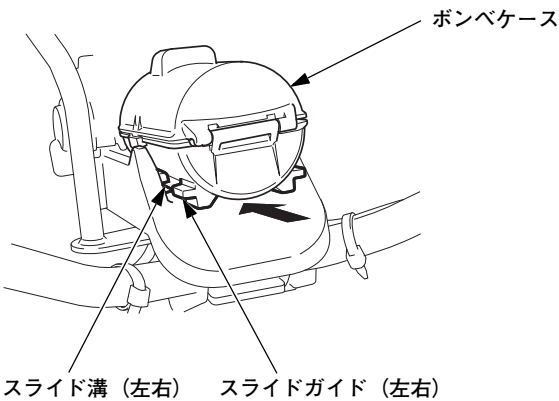

4. 口金部の汚れを点検します。
口金部に泥や砂などの汚れが付着している場合は、綿棒などで口金部のOリングを傷つけないように拭き取ってください。Oリングに損傷や亀裂がある場合はお買いあげ販売店にお問い合わせください。

**⚠警告**

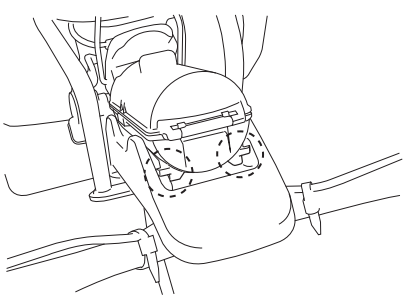
**口金部を清掃する場合は、口金部の⊕ねじをゆるめて分解したり、Oリングを傷つけないでください。配管内にたまっているガスが噴出し、引火するおそれがあります。**



5. ボンベケースのスライドガイド（左右）を本機のスライド溝（左右）に合わせて、ボンベケースを矢印方向に奥までセットします。

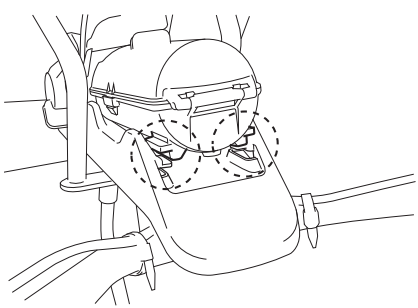



＜正＞



スライド溝にセットされています。

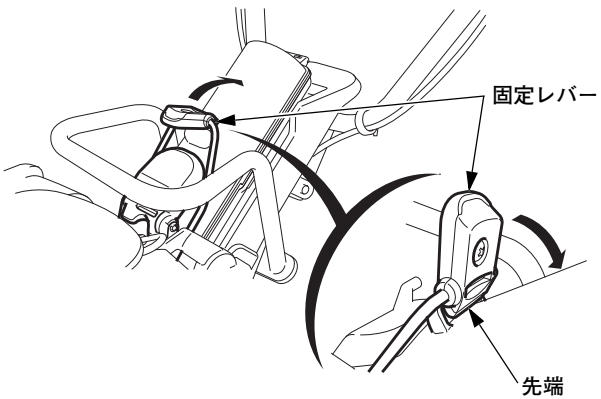
＜誤＞



スライド溝にセットされていません。

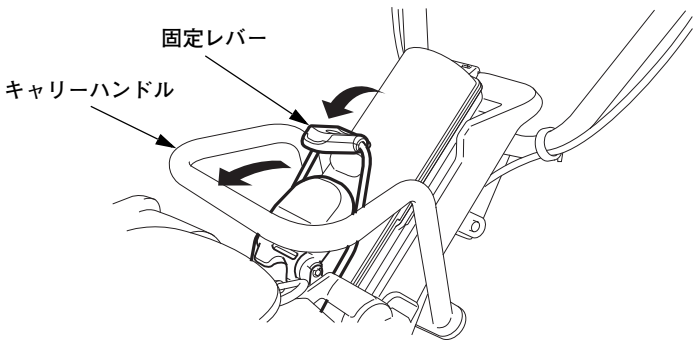
6. 固定レバーの先端をボンベケースに引っかけボンベケースを固定します。

⚠警告
**ボンベケースは、固定レバーで確実に固定してください。固定が悪いと振動でボンベケースが外れ、ガスが漏れるおそれがあります。**

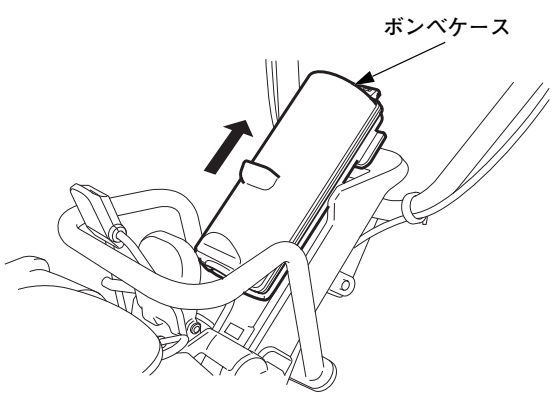


**カセットボンベの取外し**

1. エンジンを停止し、燃料コックレバーを “**止**” に合わせます。（37、38 頁参照）
2. 固定レバーを起こし、キャリーハンドルに当たるまで前方に持ち上げます。



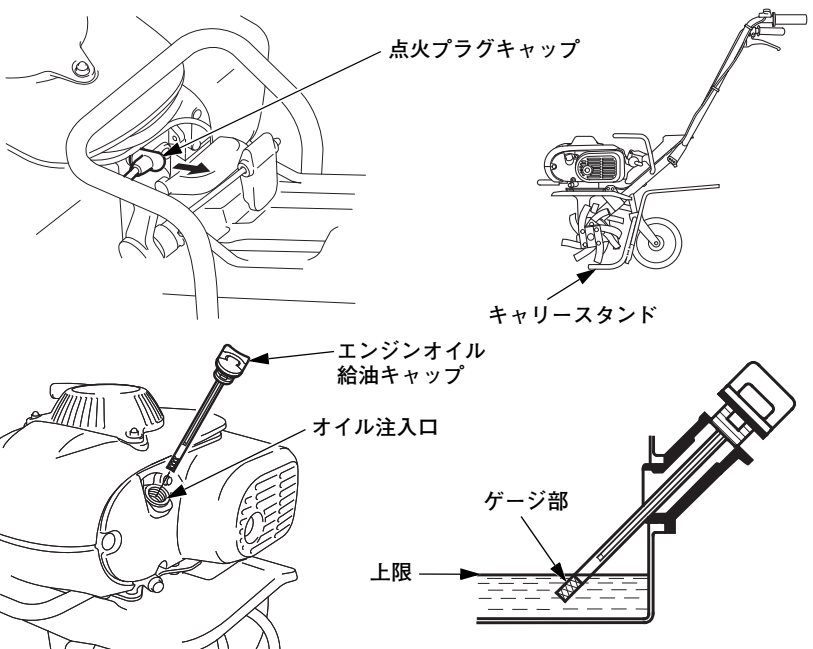

3. 固定レバーを持ち上げたまま、ボンベケースを矢印の方向にスライドさせ取外します。



## エンジンオイルの点検

点検

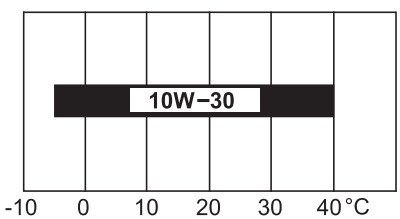
1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（25 頁参照）、「配管内の残留ガス使いきり」（38 頁参照）を行います。
2. 点火プラグキャップを取外し、キャリースタンドを取付け（30 頁参照）本機を水平にします。
3. エンジンオイル給油キャップを外し、ゲージ部についたオイルを拭き取ります。
4. エンジンオイル給油キャップをねじこまず、オイル注入口に差し込んで上限までオイルがあることを確認します。オイルが少ない場合は補給してください。（補給は 27 頁参照）
5. エンジンオイルの汚れ、変色を点検します。汚れや変色が著しい場合は、エンジンオイルを交換してください。（交換は 40 ～ 42 頁参照）
6. 点検後、エンジンオイル給油キャップを取付け、確実に締付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。



**補給**

1. 新しいエンジンオイルを上限まで補給します。(26 頁参照)
2. 補給後、エンジンオイル給油キャップを取付け、確実に締付けてください。
   - 推奨オイル
     Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30)、
     またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。




**取扱いのポイント**

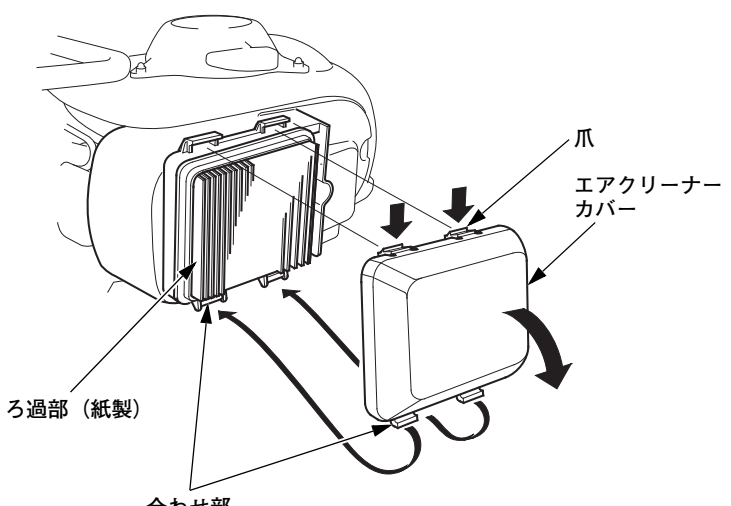
**エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

## エアクリーナー（空気清浄器）の点検

1. エアクリーナーカバーを取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、2 か所の爪を押しながら上部を外した後、下部 2 か所の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部（紙製）の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。（清掃方法は 43、44 頁参照）
3. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部 2 か所の合わせ部を組付け後、上部 2 か所の爪を確実に組付けて行います。

**取扱いのポイント**

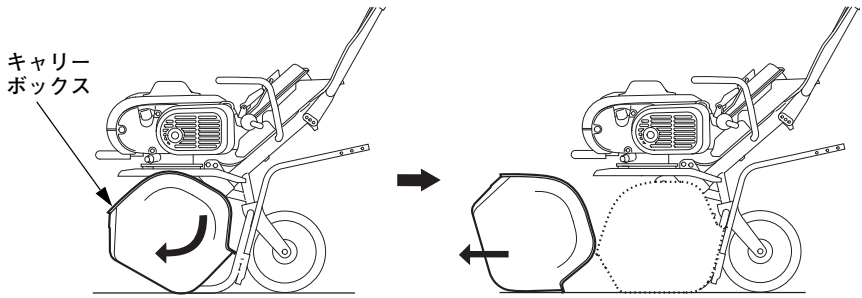
- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（紙製）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**



## キャリーボックスの取外し・取付け

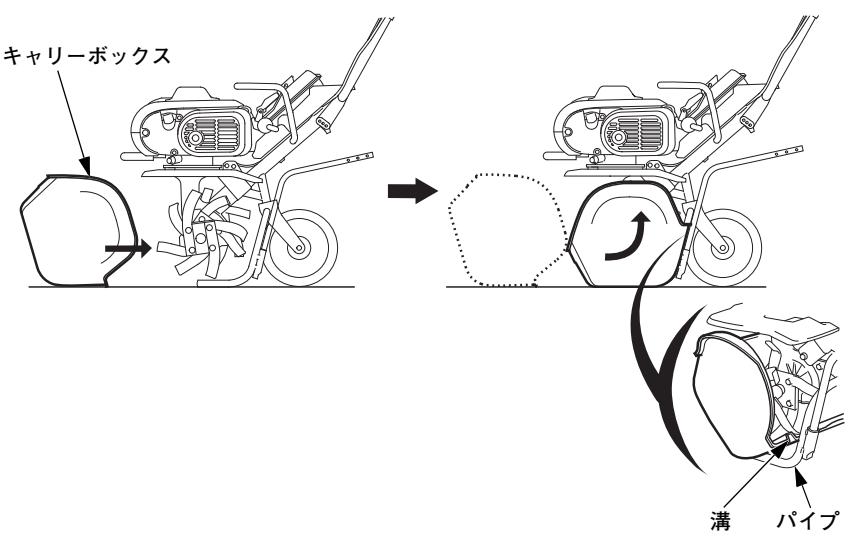
### 取外し

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。(41 頁参照)
2. キャリーボックスを矢印の方向に、取外します。




### 取付け

1. キャリースタンドを取付けます。(30 頁参照)
2. キャリーボックスをキャリースタンドのパイプが溝に収まるようにして取付けます。



## キャリースタンドの取外し・取付け

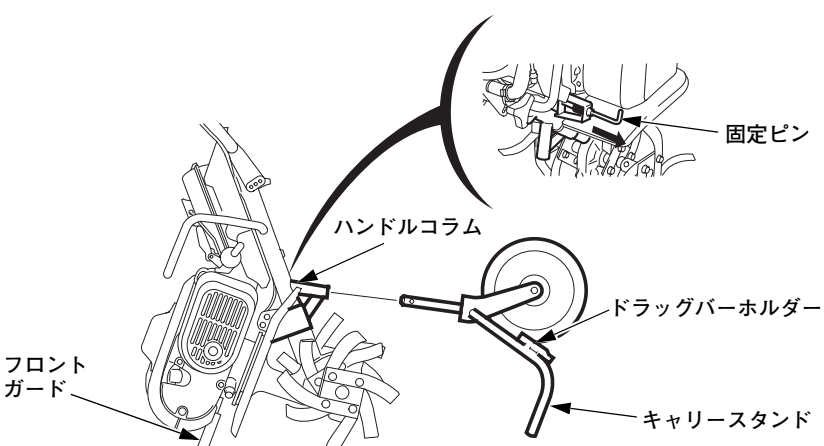
耕うんする場合は、キャリースタンドを取外し、ドラッグバー（抵抗棒）を取付けてください。(31 頁参照)

**取外し**

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。(41 頁参照)
2. エンジンオイル給油キャップが確実に締まっていることを確認し、フロントガードが地面に接地するまで本機を前方に倒します。
3. 固定ピンを引きながら、キャリースタンドを取外します。
4. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

**取付け**

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。(41 頁参照)
2. エンジンオイル給油キャップが確実に締まっていることを確認し、フロントガードが地面に接地するまで本機を前方に倒します。
3. 固定ピンを引きながら、キャリースタンドをハンドルコラムの奥まで差し込みます。
4. 固定ピンを戻し、キャリースタンドが抜けないよう固定します。
5. ドラッグバー（抵抗棒）をドラッグバーホルダーへ差し込みます。
6. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。



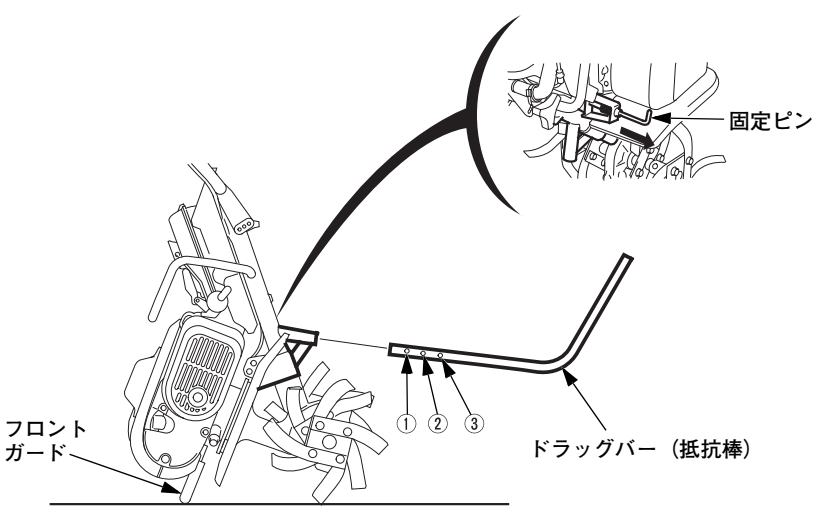
## ドラッグバー（抵抗棒）の調整

ほ場の状態によりドラッグバーの高さを調整します。
通常耕うんする場合は、ドラッグバーを②に取付けます。ほ場が硬くロータが前に進みすぎる場合は、ドラッグバーを①に取付けてください。
軟らかいほ場で、ロータが沈んで前に進まない場合は、ドラッグバーを③に取付けてください。

### 調整

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。(41 頁参照)
2. エンジンオイル給油キャップが確実に締まっていることを確認し、フロントガードが地面に接地するまで本機を前方に倒します。
3. 固定ピンを引きながら、ドラッグバーの高さを調整します。作業に合わせて３段に調整できます。
4. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

> ⚠注意
> **調整は必ずエンジンを停止してから行ってください。**

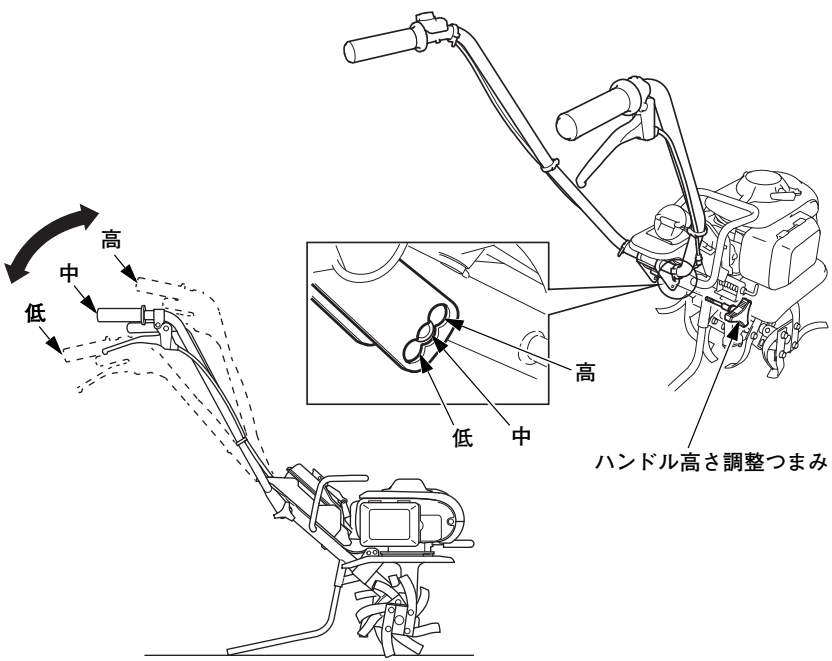


## ハンドル高さの調整

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるときに使用します。

**調整**

1. ハンドル高さ調整つまみを回しゆるめます。
2. ハンドルを保持しながらハンドル高さ調整つまみを取外します。
3. ハンドルを上下に移動し、調整つまみ先端ねじ部を任意の穴に合わせて、ハンドル高さ調整つまみを確実に締付けます。




**取扱いのポイント**

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

# エンジンのかけかた

⚠警告

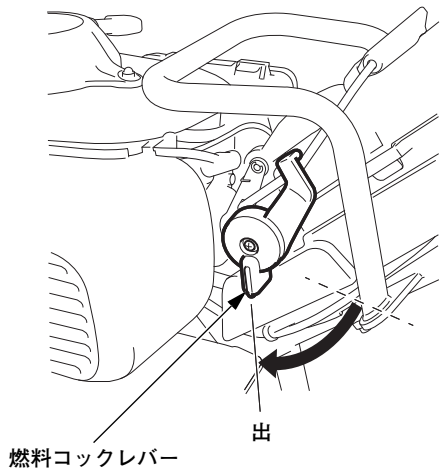
- 本機からガス漏れ（臭気）がないことを確認してください。ガス漏れ（臭気）がある場合はカセットボンベを取外し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラーの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 始動時はスロットルレバーを握らないでください。エンジン回転が上がり耕うん爪が回り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

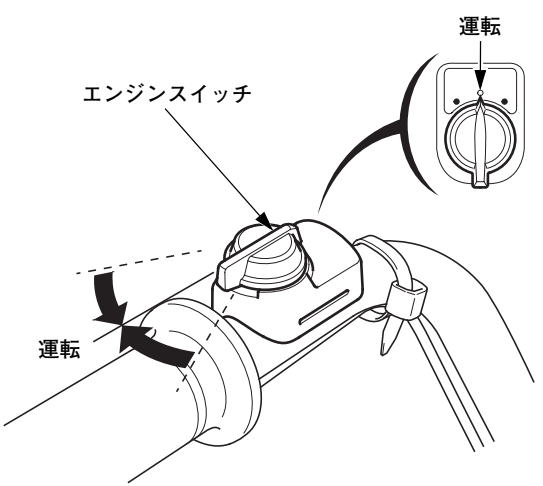
本機は、必ず外気温度 5℃ 以上でご使用ください。ブタンガスの特性上、外気温度 5℃ 未満の場合は、エンジンが始動できないことがあります。エンジンが始動できなかった場合、外気温度上昇時にエアクリーナー周辺よりガスの臭いがすることがあります。

1. カセットボンベをセットしたボンベケースを、本機に正しく取付けてください。（21 ～ 24 頁参照）
2. キャリースタンドを取外し、ドラッグバー（抵抗棒）を取付けてください。（30 ～ 31 頁参照）

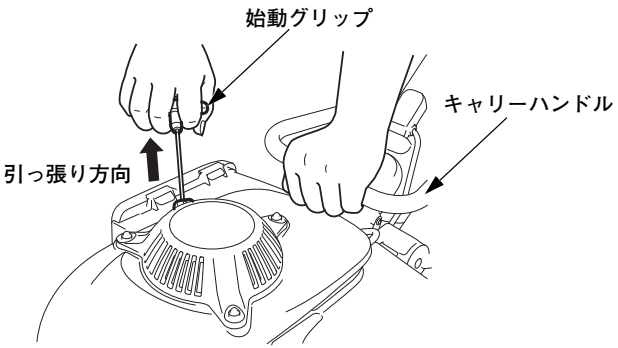
3. 燃料コックレバーを “**出**” にします。




4. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。



5. スロットルレバーが握られた状態でないことを確認してから、キャリーハンドルを握って本機をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。




⚠注意

**始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。**

**取扱いのポイント**

- **始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。**
- **運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。**

エンジンが始動しないときは、51 頁の「始動しないときは次の点を確かめましょう」を実施してください。

# 運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”（4 頁参照）の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

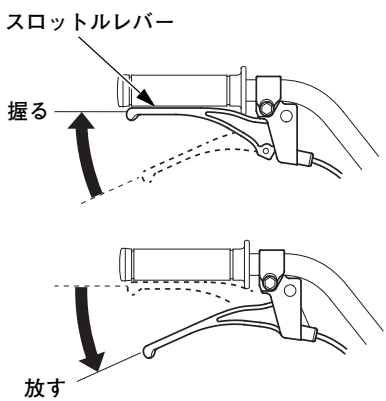
⚠注意
- **本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。**
- **本機を持ち上げるときはエンジンを止めてください。耕うん爪（ロータ）が回転し、衣類などを巻き込みケガをするおそれがあります。**

## スロットルレバー

スロットルレバーを操作することにより、本機の走行および停止が行えます。

**レバーを握る**
エンジン回転が上がり、クラッチがつながり、本機が走行します。

**レバーを放す**
エンジン回転が下がり、クラッチが切れ、本機が停止します。




取扱いのポイント
- **スロットルレバーの操作は、静か（スムーズ）に行ってください。急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。**
  **特にエンジンが冷えている状態では、エンジンが停止しやすい場合があります。**
- **使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。**

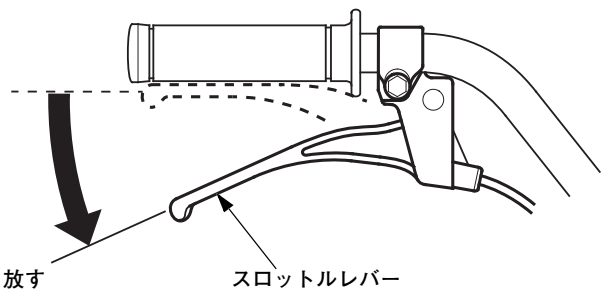
# エンジンのとめかた

## 緊急停止の場合

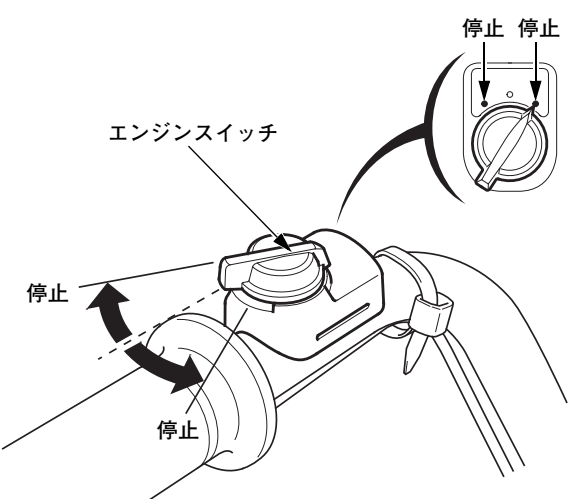
エンジンスイッチを “**停止**” に合わせます。

## 通常停止の方法

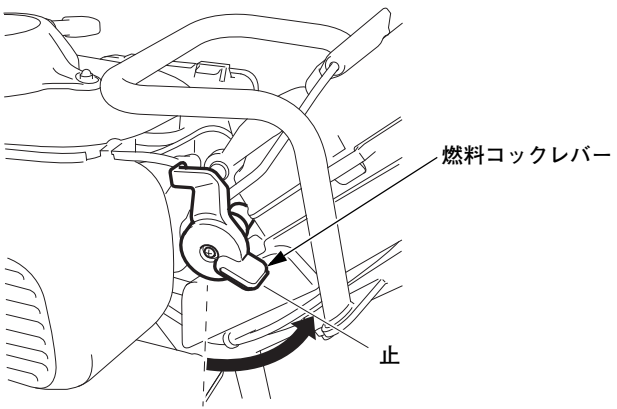
1. スロットルレバーを放します。




2. エンジンスイッチを “**停止**” に合わせます。



3. 燃料コックレバーを “**止**” に合わせます。




4. 引き続き本機を使用しない場合は、「カセットボンベの取外し」、「配管内の残留ガス使いきり」を行います。

(1)「カセットボンベの取外し」を行います。(25 頁参照)
- 取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを取付け、40°C 以下の日陰に保管してください。

(2)「配管内の残留ガス使いきり」を行います。
a. カセットボンベが取外された状態で、燃料コックレバーを “**出**” にします。(34 頁参照)
b. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。(34 頁参照)
c. 始動グリップを引いてエンジンを始動し (35 頁参照)、アイドル回転で、エンジンが停止するまで運転します。
d. エンジンが停止したら、エンジンスイッチを “**停止**” の位置に合わせます。(37 頁参照)
e. 燃料コックレバーを “**止**” に合わせます。(上記 3. を参照)

# 定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

## 定期点検表

| 点検項目 ＼ 点検時期（3） | | 稼働期前 | 作業前点検 | 1ヶ月目または初回20時間運転目 | 3ヶ月毎または50時間運転毎 | 1年毎または300時間運転毎 | 4年毎 | 参照頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| エンジンオイル | 点検、補給 | | ○ | | | | | 26 |
| | 交換 | ○ | | ○ | | ○100時間運転毎（4） | | 40 |
| エアクリーナー | 点検 | | ○ | | | | | 28 |
| | 清掃 | | | | ○（1） | | | 43 |
| | 交換 | | | | | ○ | | 43 |
| 点火プラグ | 点検、調整 | | | | | ○（2） | | – |
| クラッチシュー | 点検 | | | | | ○（2） | | – |
| 本機の周り | 点検 | | ○ | | | | | 19 |
| 口金Oリング（逆止弁） | 点検 | | ○ | | | | ○（2）（6） | 22 |
| レバー類の作動 | 点検 | | ○ | | | | | 19 |
| 各部の締付け | 点検 | | ○ | | | | | 19 |
| 配線、ケーブル類 | 点検 | | ○ | | | | | 19 |
| エンジンの始動、停止 | 点検 | | ○ | | | | | 19 |
| アイドル回転 | 点検 | | | | | ○（2） | | – |
| スロットル（エンジン回転調整）ケーブル | 点検、調整 | | | | | ○（2） | | – |
| 吸入、排気弁のすき間 | 点検、調整 | | | | | ○100時間運転毎（2） | | – |
| 燃焼室 | 清掃 | 300時間運転毎（2）（5） | | | | | | – |
| 負圧チューブ | 点検 | 2年毎（2）（6） | | | | | | – |
| 燃料チューブ（低圧／高圧／ベーパライザ） | 点検 | 2年毎（2）（6） | | | | | | – |
| レギュレーター | ドレン | | | | | | ○（2） | – |

（1）ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（2）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
（3）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（4）高負荷、高温で使用した場合、エンジンオイルは50時間運転毎に交換してください。
（5）表示時間を経過後すみやかに実施してください。
（6）傷、亀裂があれば交換してください。

## 点検・整備のしかた

作業を始める前に、作業内容を確認ください。ご自身で実施できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店に相談ください。

⚠警告

**点検、整備は平坦な場所で必ず本機からカセットボンベを取外し、エンジンを停止させ、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを取外して行ってください。**

### エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

**エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**

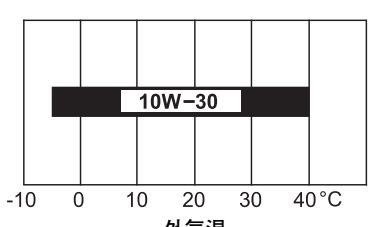
取扱いのポイント

**本機を横倒しにしないでください。オイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。**

12 mm のレンチ類をご用意ください。レンチ類は装備されていません。

《推奨オイル》
Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）、または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

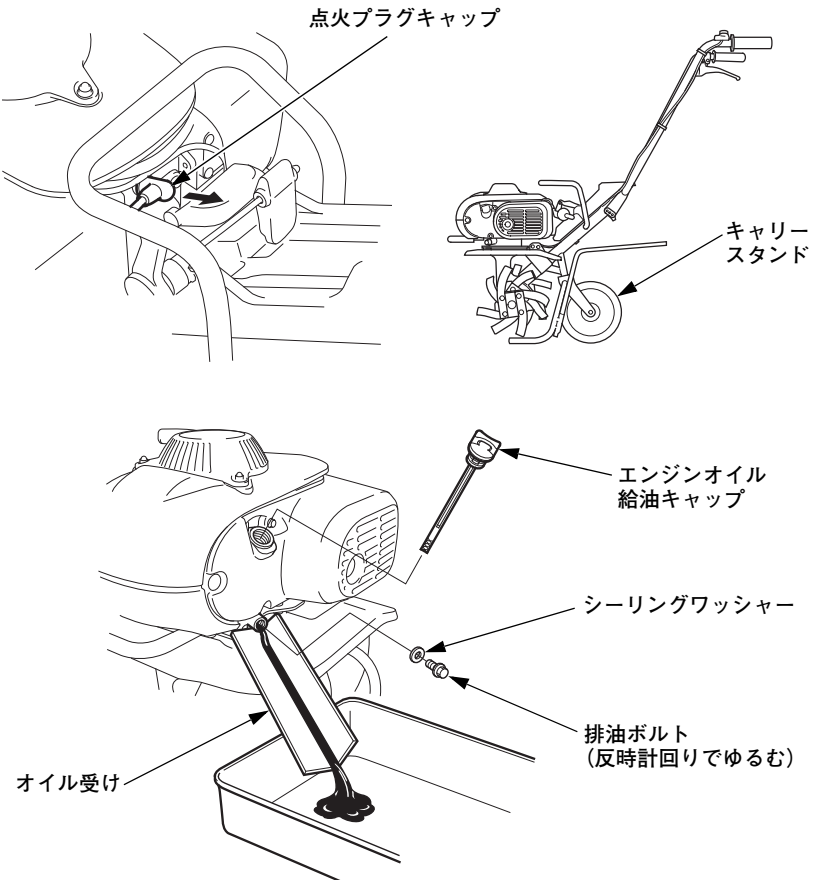
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



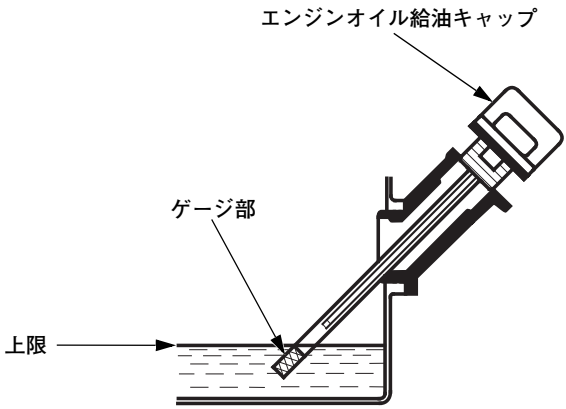

《エンジンオイル量》0.30 L

《交換のしかた》

1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（25 頁参照）、「配管内の残留ガス使いきり」（38 頁参照）を行います。
2. 点火プラグキャップを取外し、キャリースタンドを取付け（30 頁参照）本機を水平にします。
3. 厚紙などで図のようなオイル受けを用意し、セットしてください。
4. エンジンオイル給油キャップ、排油ボルトとシーリングワッシャーを外し、オイルを完全に抜きます。オイルは容器に受けてください。



5. 新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
6. 新しいエンジンオイルをゲージ部で確認しながら上限まで注入します。




7. 注入後、エンジンオイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

**取扱いのポイント**

- **交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

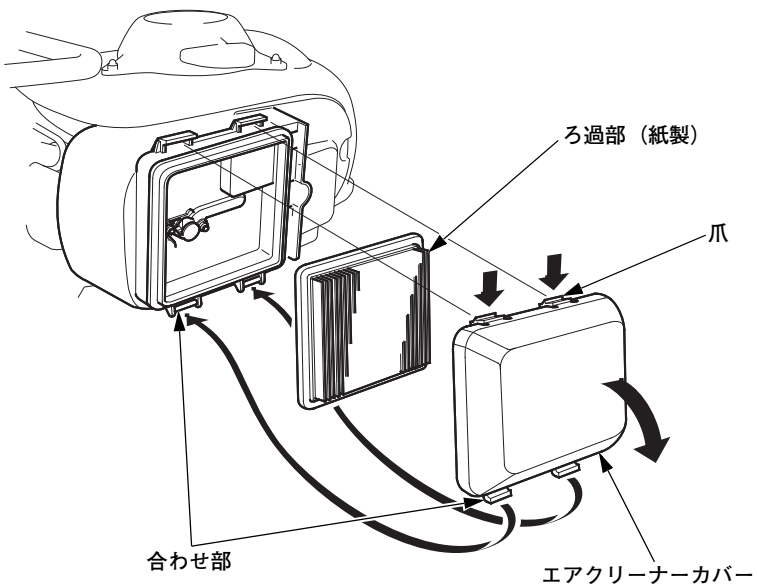
8. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

## エアクリーナー（空気清浄器）の清掃

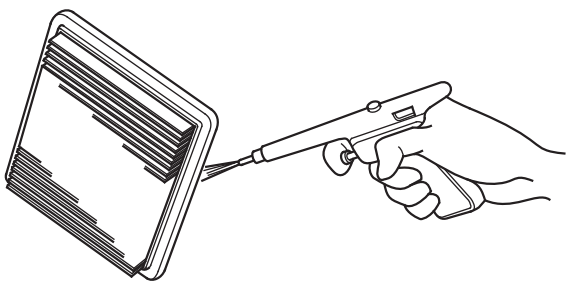
エアクリーナー（空気清浄器）が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃のしかた》

1. エアクリーナーカバーを外し、ろ過部（紙製）を取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、2 か所の爪を押しながら上部を外した後、下部 2 か所の合わせ部を離して行います。



2. ろ過部の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。



3. ろ過部、エアクリーナーカバーを取付けます。
エアクリーナーカバーの取付けは、下部２か所の合わせ部を組付け後、上部２か所の爪を確実に組付けて行ないます。

**取扱いのポイント**

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（紙製）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

## 耕うん爪（ロータ）の点検・交換

⚠注意

**耕うん爪の取外し、取付けを行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。**

取扱いのポイント

**本機を横倒しにしないでください。オイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。**

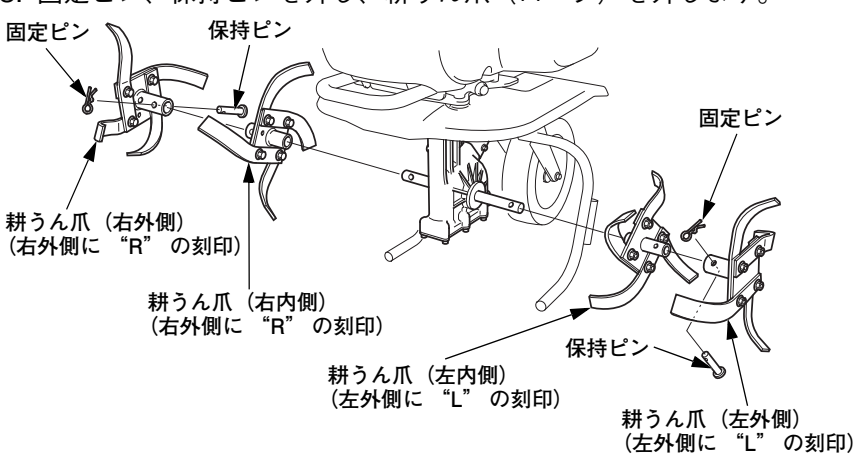
《点検のしかた》

1. 耕うん爪の損傷、曲がりがないことを確認します。もし異常があったときは交換してください。
2. 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないことを確認します。必要であれば新しいピンと交換してください。

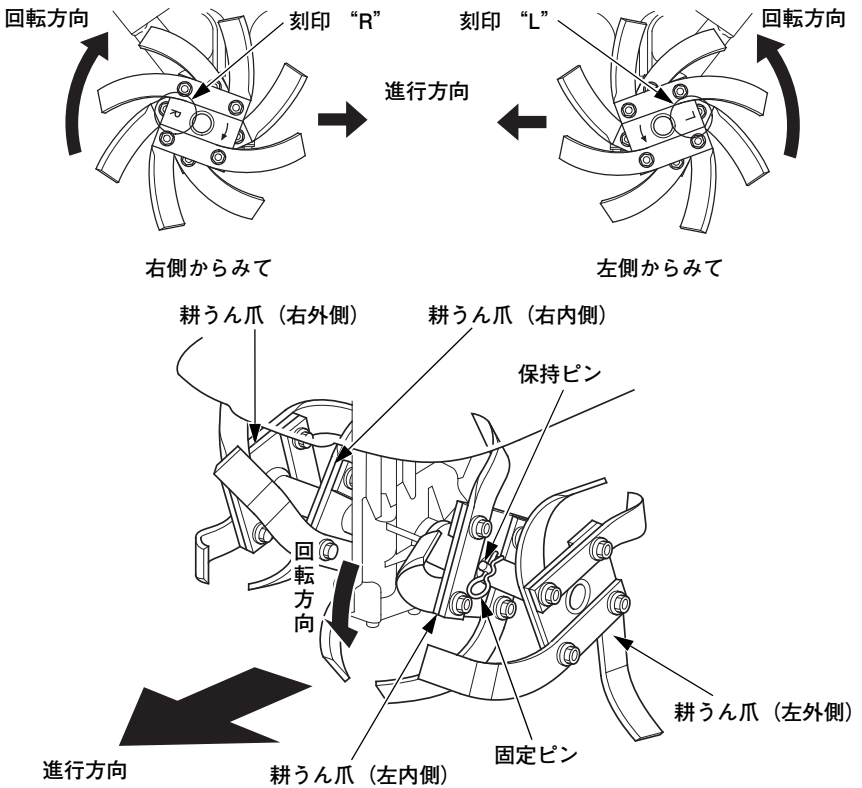
   保持ピンは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

《交換のしかた》

1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（25 頁参照）、「配管内の残留ガス使いきり」（38 頁参照）を行います。
2. 点火プラグキャップを取外し、キャリースタンドを取付け（30 頁参照）本機を水平にします。
3. 固定ピン、保持ピンを外し、耕うん爪（ロータ）を外します。



4. 耕うん爪（ロータ）を取付け、保持ピン、固定ピンを取付けます。
固定ピンは図のように回転方向と逆に差し込んでください。
耕うん爪を交換した場合は耕うん爪を左右対称に取付けます。




**取扱いのポイント**

**耕うん爪は Honda 純正部品を使用してください。**

5. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

## 使用後の手入れ

⚠注意

**エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**

取扱いのポイント

**本機を横倒しにしないでください。オイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。**

1. 本体やロータ部分についた土、わら、草やよごれなどを落としてください。

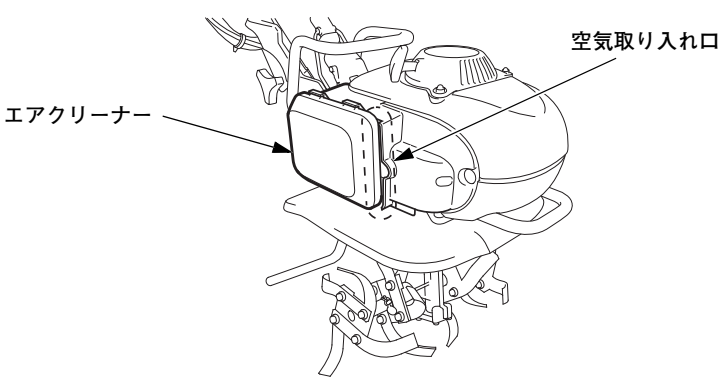
⚠注意

**草や木の葉がエンジンの周囲に付着したままにしないでください。火災を起こす可能性があります。**

2. エアクリーナーについた土やほこりを落としてください。

取扱いのポイント

**洗車する場合はエアクリーナーの空気取入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。**



## 長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

**・手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き、エンジンを停止してください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外して行ってください。**
**・エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてから手入れを行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**

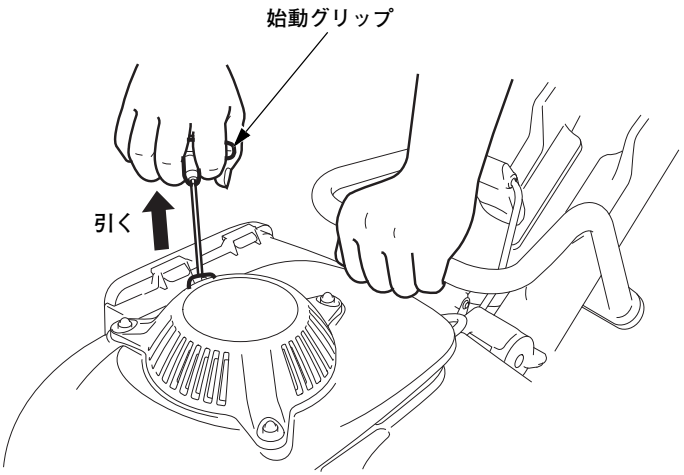
1. 本機各部の清掃を行います。

⚠警告

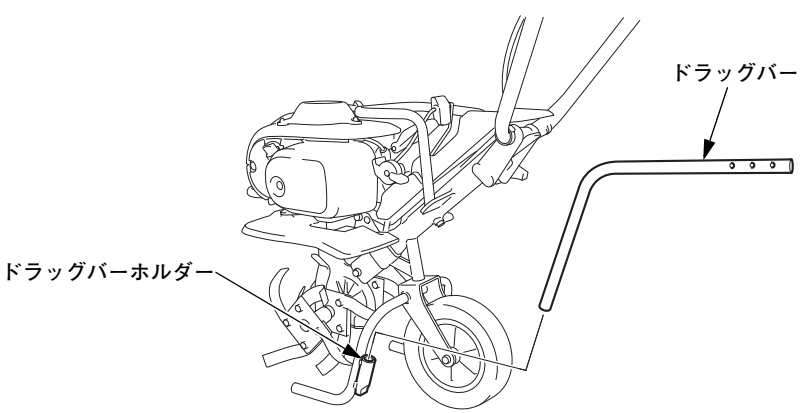
**液化ブタンは非常に引火しやすく、また 0℃ 以上では気化するため、引火した場合は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。**
**カセットボンベを取外しするときは**
**・エンジンを停止してください。**
**・換気の良い場所で行ってください。**
**・火気を近づけないでください。**

2. 本機からカセットボンベを取外します。(25 頁参照)
   取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを装着して 40℃ 以下の日陰で、湿気の少ない場所に保管してください。
3.「配管内の残留ガス使いきり」を行います。(38 頁参照)
4. キャリースタンドを取付けます。(30 頁参照)
5. エアクリーナーを清掃します。(清掃方法は 43 頁参照)

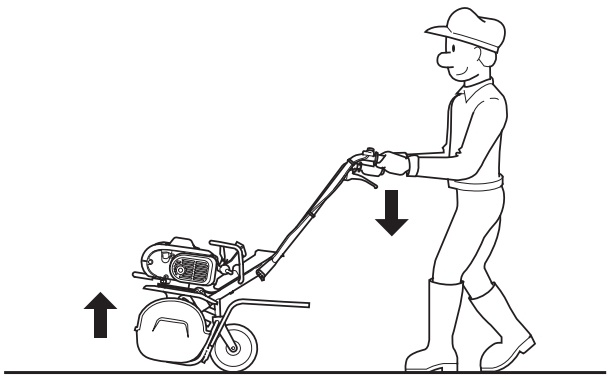
6. 始動グリップを重くなるまで引きます。（エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。）




7. ドラッグバー（抵抗棒）をドラッグバーホルダーに収納します。



8. キャリーボックスを取付けます。(29 頁参照)
   ・キャリースタンドでの移動はハンドルを押し下げ、スタンド部を浮かせて移動させてください。



**取扱いのポイント**

- **旋回時は、本機を傾けすぎないでください。スタンド部が地面に接触し、ハンドルをとられる場合があります。**
- **段差への進入は、後進でゆっくりと行ってください。**

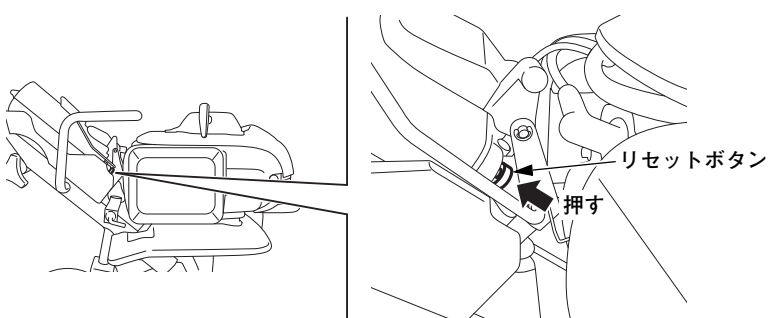
9. シートなどをかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管してください。

# 故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお問い合わせください。

**始動しないときは次の点を確かめましょう**

1. 外気温度は 5℃ 以上ありますか？
   ブタンガスの特性上、外気温度が 5℃ 未満の場合は、エンジンが始動できないおそれがあります。
2. 圧力検知弁が作動している可能性があります。解除作業を行ってください。
   カセットボンベを本機に取付けたまま保管すると、圧力検知弁が作動する場合があります。圧力検知弁が作動中はエンジンが始動できません。リセットボタンを押して圧力検知弁の作動を解除してください。（解除作業は 52 頁参照）
3. 燃料コックレバーは “**出**” になっていますか？（34 頁参照）
4. エンジンスイッチは “**運転**” になっていますか？（34 頁参照）
5. カセットボンベにガスはありますか？（20 頁参照）
6. ガス漏れ（臭気）はありませんか？
   本機周辺からガス漏れ（臭気）がある場合は、お買いあげ販売店にお問い合わせください。
7. エアクリーナーは正しく取付けてありますか、またろ過部は目詰まりしていませんか？（28 頁参照）
8. 点火プラグキャップは、確実に取付けてありますか？（41 頁参照）



**エンジンが突然停止してしまったときは次の点を確かめましょう**

1. カセットボンベにガスはありますか？（20 頁参照）
2. 圧力検知弁が作動している可能性があります。解除作業を行ってください。

《圧力検知弁の作動》

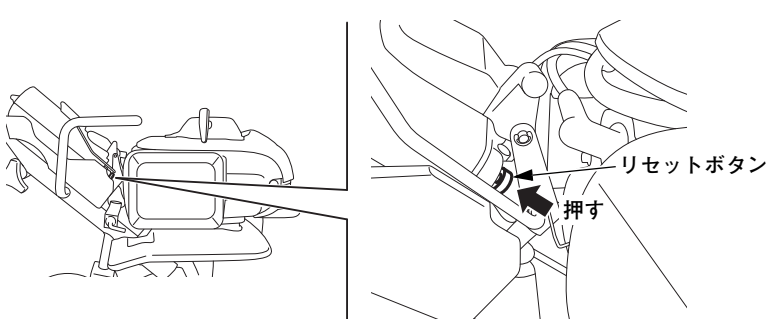
カセットボンベ（配管）の圧力が設定圧を超えると、圧力検知弁が作動し燃料通路を遮断して、エンジンが停止し再始動できません。

- 外気温が 40°C を超えている場合、カセットボンベ（配管）のガス圧力が高まり、圧力検知弁が作動しやすくなります。
- 外気温が 40°C 以下でも、圧力検知弁が頻繁に作動する場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

《解除作業》

圧力検知弁の作動状態は、リセットボタンを押すことで解除されます。

- リセットボタンを押してもすぐにエンジンが停止する場合は、次の手順で圧力を取り除いてください。
  (1) カセットボンベを取外します。(25 頁参照)
  (2) 燃料コックレバーを “**出**” の位置にします。(34 頁参照)
  (3) エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。(34 頁参照)
  (4) 始動グリップを数回引きます。(35 頁参照)
  もし、エンジンが始動した場合は、停止するまでエンジンをアイドル回転で運転します。
  (5) リセットボタンを押します。
- 圧力を取り除いてもエンジンが始動しない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

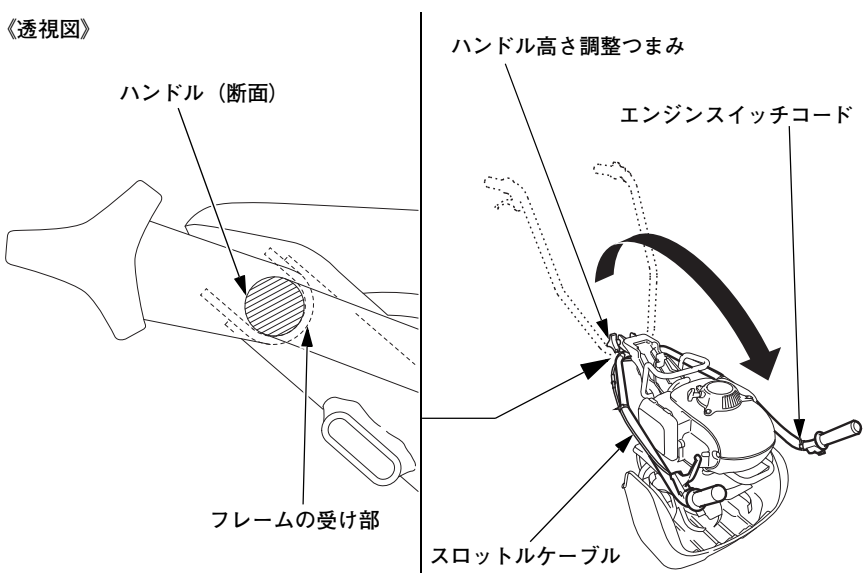


## ハンドルのたたみかた

ハンドルは、「フレームの受け部」を中心にして前方へたたみます。

1. 本機からカセットボンベを取外します。(25 頁参照)
   取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを取付け、40°C 以下の日陰に保管してください。
2. 「配管内の残留ガス使いきり」を行います。(38 頁参照)
3. キャリースタンドとキャリーボックスを取付けます。(30、29 頁参照)
4. ハンドル高さ調整つまみを取外します。
5. 本機を押さえて、「フレームの受け部」を中心にするようにしながら、ハンドルを静かに前方へたたみます。
   - スロットルケーブル、エンジンスイッチケーブルをひっかけないように注意してください。
   - 透視図のように、ハンドルが「フレームの受け部」にあることを確認してください。
6. ハンドル高さ調整つまみを紛失しないように、取付け部に取付けてください。

《透視図》

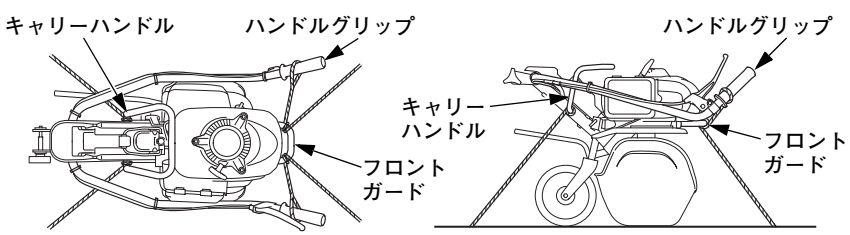



- ハンドルを伸ばすときは、逆の手順でもとの位置に戻し、ハンドル高さ調整つまみをガタのないように確実に締付けてください。

## 車の荷台への積載

1. 本機からカセットボンベを取外します。(25 頁参照)
   取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを取付け、40°C 以下の日陰に保管してください。
2.「配管内の残留ガス使いきり」を行います。(38 頁参照)
3. キャリースタンドとキャリーボックスを取付けます。(30、29 頁参照)
4. 本機を車の荷台に積載します。
5. ハンドルをたたみます。(53 頁参照)
6. フロントガード部とキャリーハンドル部にロープなどをかけ、本機を固定します。本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。
   - ハンドルがガタつく場合は、ハンドルグリップ部とフロントガード部をロープなどで結んで固定してください。

《ロープのかけかた》




**取扱いのポイント**

- **本機を横倒しにしないでください。オイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。**
- **ロープをかける場合は、必ず指定された場所にロープをかけてください。指定された場所以外にロープをかけると、本機が破損するおそれがあります。**

## 乗用車への積載

1. 本機からカセットボンベを取外します。(25 頁参照)
2.「配管内の残留ガス使いきり」を行います。(38 頁参照)
3. 本機を車へ積載します。
4. 本機が動かないように、ウエスなどで固定します。

**取扱いのポイント**

**本機を横倒しにしないでください。オイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。**

# 主要諸元

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名称 | | FV200 | |
| 型式 | | ホンダ FV200 | |
| 区分 | | JT2 | JGT2 |
| 寸機法体 | 全長＊2 | 1,055 mm | |
| | 全幅＊2 | 485 mm | |
| | 全高＊2 | 990 mm | |
| 全装備質量（重量） | | 20 kg | |
| エンジン | 名称 | GXV50T | |
| | 形式 | 空冷４ストローク単気筒 | |
| | 総排気量 | 49.4 $cm^3$ | |
| | 最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠＊1） | 1.1 kW (1.5 PS) / 5,000 rpm | |
| | 連続定格出力／回転速度 | 1.0 kW (1.4 PS) / 4,600 rpm | |
| | 使用燃料 | LPG（液化ブタン） | |
| | エンジンオイル容量 | 0.30 L | |
| | 点火方式 | トランジスタ式マグネト点火 | |
| | 標準点火プラグ | (DENSO) U14FS-UB<br>(NGK) C4HSB | |
| | 始動方式 | リコイルスタータ | |
| 主クラッチ方式 | | 遠心クラッチ | |

＊1：ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 5,000 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

＊2：耕うん爪（ロータ）が水平面に接地した状態を基準とする。

※ 諸元は予告なく変更することがあります。

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

**販売店**

**TEL**

**お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。**

本田技研工業株式会社　お客様相談センター
フリーダイヤル　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

（1）製品名、タイプ名
（2）ご購入年月日
（3）販売店名
（4）フレーム号機　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（書込み控え欄）

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後 9 年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA

FV200
30V38602
00X30-V38-6023

00X30V38 6023

© 2019 本田技研工業株式会社
Printed in Japan